

**【学校教育目標】**

**10年後、20年後の社会をたくましく生き抜く基礎力の育成**

**研究主題 自ら「学び続ける力」の育成**

思いやり  
認め合う力

行動する力

学び続ける力

**天草市立本渡中学校**



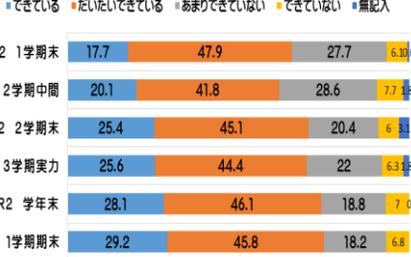


# 習慣づくりプロジェクト

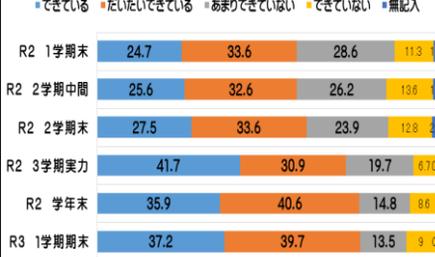
生涯学び続けることができるように、授業と家庭学習の関連や家庭との連携を図りながら、より効果的な家庭学習の取組方法を検討し提案しています。

定期テスト後に行う「家庭学習チェックリスト」のアンケート結果(令和2年度より)

## 私は、自分で計画したことに取り組んでいる。



## 子供は、学年の最低学習時間以上取り組んでいる。



## <家庭学習チェックリスト>

- (生徒編)
- 私は、自分で計画したことに取り組んでいる。
  - 私は、その日の学習の復習はその日のうちにできている。
  - 私は、もっと知りたいことや興味のあること、疑問に思ったことをテーマにした自主学習に取り組んでいる。
- (家庭編)
- 子供の机の上は学習用具だけで、集中できる状態になっている。
  - 子供の自学ノートをみて、ほめたりアドバイスしたりしている。
  - 子供は、学年の最低学習時間以上取り組んでいる。(1年生1.5時間 2年生2時間 3年生3時間)

2次方程式の解の公式は...

「あくていびていスペース」での学習の様子

テストに向けてよく勉強しているときました。この調子で頑張ってください。

保護者からのコメントの入った自学ノート

## 家庭との協力

- ◆ 家庭学習のチェックリスト(生徒編・家庭編)を配付し、保護者にも家庭学習への働きかけをお願いします。
- ◆ 定期テストの成績は、学習計画・振り返り・家庭学習チェックリストとともに1つのファイルにまとめてポートフォリオにしています。生徒が自らの学習について振り返り、PDCAサイクルを確立できることを目指しています。

「ステップアップ大会」の様子

## 学習意欲の向上

- ◆ 各階のホール「あくていびていスペース」(生徒会が名称を募集し決定)を生徒が昼休みや放課後に学習スペースとして利用しています。
- ◆ 漢字・計算・英単語の「ステップアップ大会」を実施し、基礎的学力と学習意欲の向上を目指しています。また、クラスマッチ形式で実施し、クラスで勉強を教え合いながら取り組んでいます。

## 家庭学習の工夫

- ◆ その日にあった5教科(国社数理英)は、その日のうちに復習することを基本としています。
- ◆ 授業と家庭学習のつながりをつくるために、「自学のポイント」を授業の中で示し、その日の自学に取り入れています。
- ◆ 生徒会学習委員会主催の「自学コンクール」を実施し、家庭学習の取組に対して意識の向上を目指しています。

「ステップアップ大会」の表彰

D

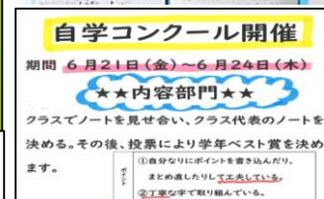
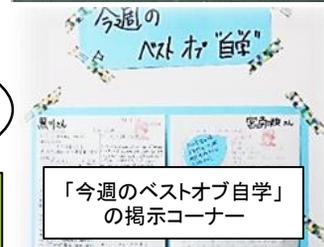
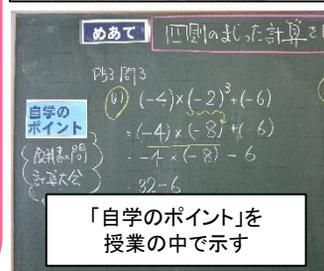
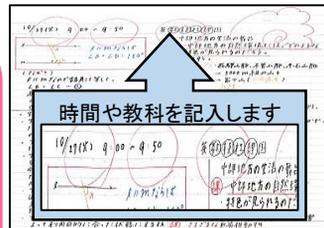
## 「学習計画タイム」の充実

- ◆ 帰りの会の前に「学習計画タイム」を設定し、家庭学習の教科、内容、時間について担任が生徒一人一人へアドバイスをを行います。
- ◆ 学習計画タイムの進め方については、生徒会学習委員会で説明用プレゼンテーションを作成し、全校で同じ取組ができるようにしています。

担任のアドバイスを受けて自学ノートに計画を立てる

学習計画タイム説明用プレゼンテーション

昨日は、理科を中心に頑張っていたから、今日の自学は、数学を中心に頑張ってみよう。



P

# 授業づくりプロジェクト

単元の最後の授業を終えたときの生徒の姿(単元のゴールの姿)を具体的に設定し、その実現に向けて単元のまとまりで授業を構想することを大切にしています。

## 単元デザインの工夫

生徒の「わくわく」が生まれる工夫

◆ 本校では、次のようにして単元デザインを行っています。

- 1 ○単元の目標(学習指導要領より設定)
- 2 ○単元の評価規準(「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を基に設定)

## 大切にしていきたい3項目の設定

- 3 ○単元終了時の生徒の姿  
「単元の目標」「単元の評価規準」などを根拠に、生徒の単元のゴールの姿を設定する。
- 4 ○単元を通した学習課題  
単元のゴールに迫る、単元を通した学習課題を設定する。
- 5 ○単元で働かせる見方・考え方  
学習指導要領に基づき、単元で働かせる見方・考え方を設定する。

- 6 ○単元の学習計画(学習計画をまとまりとして設定)
- 7 ○生徒との共有化(単元のゴールや姿の共有化)

【大切にしたい3項目の実践例】  
(本校の研究授業より)

## チェックポイント

## 考え方

### 単元終了時の生徒の姿

- 目標や評価規準を踏まえ、具体的な学習や生活の場面での子供の姿となっていますか。
- 子供たちと共有できる表現になっていますか。

- 目標や評価規準の要約
- 具体的な学習での子供の姿、または、生活の場面での子供の姿を基に設定する。

### 単元を通した学習課題

- 子供たちが単元を通して興味・関心をもって深く考えることができる学習課題ですか。
- 見方・考え方を働かせて、課題解決を図ることができるものですか。
- 子供たちと共有できる表現ですか。
- 単元のゴールの姿に迫るものですか。

- 学習内容や指導事項に関する内容
- 言語活動の目的
- 生活につながる内容
- 中心的な学習課題など、教科や単元の特質に応じて設定する。

### 単元で働かせる見方・考え方

- 単元を通した学習課題を解決するための見方・考え方となっていますか。
- 見方・考え方を働かせると深い学びになりますか。

- 「～に」などの言葉を用いながら見方に関する内容
- 「～する」などの言葉を用いながら考え方に関する内容など、教科や単元の特質に応じて設定する。

	単元終了後の生徒の姿	単元を通した学習課題	単元で働かせる見方・考え方
国語	考えを伝え合うときに、具体と抽象の関係を理解し、曖昧な表現を具体化したり、具体的な情報をまとめて抽象化したりして、自分の考えをよりよく伝えようとする生徒	わかりやすく伝えるためには、どのように具体化したり、抽象化したりするとよいだろうか。	「具体」と「抽象」の概念に着目し、相手にわかりやすく伝えることを通して、言葉への自覚を高めること。
社会	よりよい社会を築く力をつけるために、終戦から現在までの日本の歩みを学ぶことで、様々な出来事が日本に影響を与えてきたことを理解し、現在抱えている諸問題について、自分にできることを考え、実践していこうとする生徒	戦後76年、日本はどのような歴史を歩んできたのだろうか。	戦後の発展と現在の課題を、国内状況や外国との関わりなどに着目して、多面的・多角的に考察すること。
数学	円周角と中心角の関係を活用しながら課題解決に取り組んだり、自分の考えを根拠をもとに論理的に説明しようとしている生徒	円周角と中心角の関係をみだしながら問題を解決し、自分の考えを根拠を示しながら説明しよう。	事象を円周角と中心角の關係に着目して捉え、図形に関する既習の性質を根拠として筋道立てて説明すること。
理科	いろいろな生物の特徴を基に身の回りに生息する生物の観察や分類に進んで取り組む生徒	身の回りに生息する生物を、自分の考えをもってなにかま分けできるようになる。	身の回りに生息する生物についてその特徴を捉え、共通性や多様性を見だしながらその分類について科学的に探求すること。
英語	お互いのことをよく知るために、自分と相手以外の人のことについて、相手に配慮しながら、事実や自分の考え、気持ちを整理し伝えたり、相手からの質問に答えたりして伝え合っている生徒	A L Tの先生に日本のことを知ってもらうために、自分の紹介したい人物について英語で紹介しよう。	相手に伝えたい人物について、既習のものも含めて習得した概念(知識)を相互に関連付けながら、内容や表現を工夫すること。

# 授業改善への取組

生徒が問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める授業づくりを推進しています。

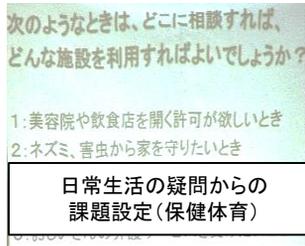
## つかむ 「課題を見つける力」

生徒の「なぜ」「おそらく」が生まれる学習課題の設定

- ◆ 単元のゴールや前時の学習内容とのつながりを意識し、生徒の興味関心を引き出す学習課題の設定を行っています。



具体物を用いながらの課題設定(理科)



日常生活の疑問からの課題設定(保健体育)



生徒アンケートからの課題設定(国語科)



前時とのつながりからの課題設定(数学科)

## 生徒が学び合う場面を組み立てていますか？

## ふかめる 「解決する力」

生徒の「なるほど」が生まれる工夫

- ◆ 課題解決のために話し合い活動を取り入れ、話し合う目的や手段を明確にしています。



ペアトーク(英語科)



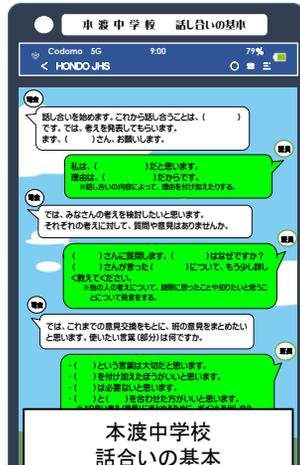
役割分担を行った話し合い活動(国語科)



付箋を用いた話し合い活動(学級活動)



予想を実験で確かめる(なかよし学級理科)



本渡中学校  
話し合いの基本

## 生徒の問いは引き出せていますか？

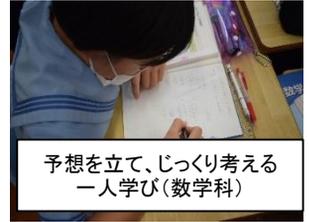
## さぐる 「見通す力」

生徒の「やってみよう」が生まれる工夫

- ◆ 本時の課題を解決するために必要な既習事項の確認を行ったり、資料を提示したりしています。その後、予想や仮説を立てたり、選択肢を提示したりして課題解決の見通しを立てさせています。



キーワードを示し、見通しを立てる(国語科)



予想を立て、じっくり考える一人学び(数学科)



参考作品を手がかりに自分の作品をつくる(美術科)



生徒の予想を一人一人確認(社会科)

## 終末の5分は確保できていますか？

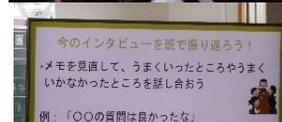
## まとめる 「振り返る力」

生徒の「分かった」「できた」「もっとやってみよう」が生まれるまとめや振り返りの工夫

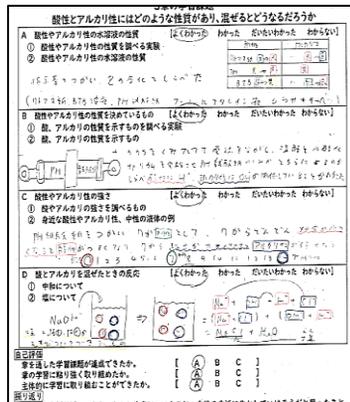
- ◆ まとめや振り返りでは、単元のゴールを意識させたり、視点を明確にしたりしています。



生徒の言葉によるまとめ(理科)



振り返りの視点を示す(国語科)

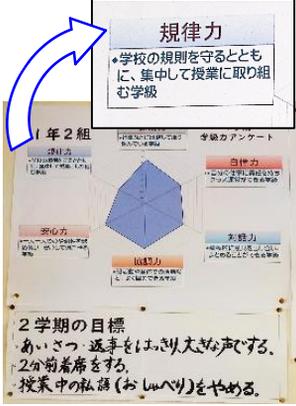


単元を通じた振り返りシート(理科)

# 土台づくりプロジェクト

「生徒と生徒」「生徒と先生」「学校と家庭・地域」それぞれがつながりのある教育活動の推進に向けて、支え合い、高め合う風土づくりを進めています。

- ◆ 学期末の学級の実態アンケートを基に、学級の課題を生徒たちで発見し、改善に向けた学級目標を設定しています。



- ◆ 学びを支える人間関係づくりの場としてハートフルタイムを実施し、班活動で協力するための指導・支援を行っています。

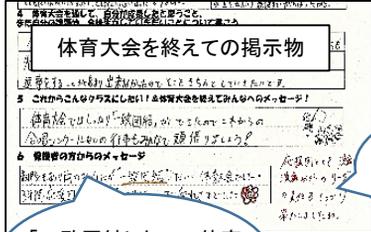


このピースはこっちとつながっているよ。

## 学級づくり



- ◆ 授業の基盤である学習規律の確立に努めています。
- ◆ 落ち着いた学校・教室環境づくりのために、教室や学校の掲示を整えています。個人の掲示物には、担任からのコメントだけでなく、保護者からのコメントをもらったりします。



「リーダーとしての責任もしっかり果たせました。」(担任からのコメント)

## 環境づくり



## 地域とのつながりづくり

## あいさつ運動の推進

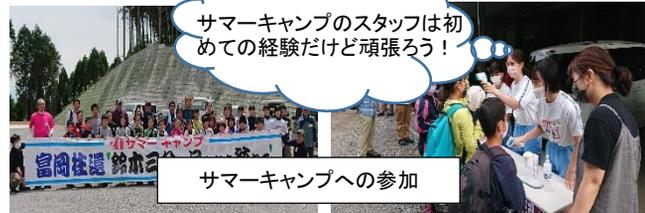
- ◆ 地域で行われるボランティアに積極的に参加しています。



中学生が褒めてくれるのでうれしいな!

漢字が丁寧に書いているね。すごいね!

- ◆ 生徒会が中心となって、朝のあいさつ運動に取り組んでいます。学級や部活動ごとに、当番を決め全校生徒が取り組むことで、あいさつへの意識向上につなげています。



サマーキャンプのスタッフは初めての経験だけど頑張ろう!



**本中生 あいさつのレベル**

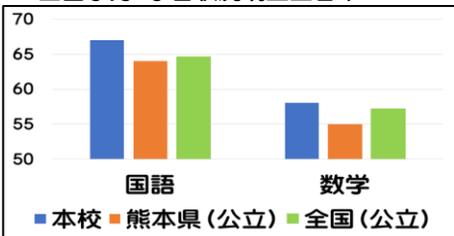
- 5 自分から 笑顔ではきはきと
- 4 自分から 相手を見て はきはきと
- 3 自分から 相手を見て 聞こえる声で
- 2 聞こえる声で あいさつを返す
- 1 礼を返す

社会で通用する あいさつの達人

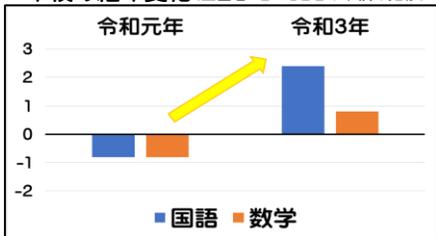
生徒会生活委員会が設定した「本中生あいさつのレベル」



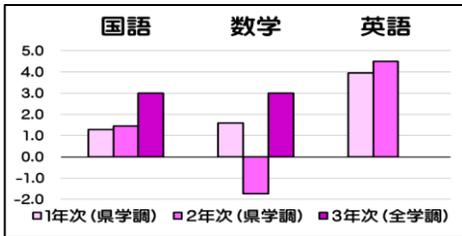
(1) 令和3年度  
全国学力・学習状況調査正答率



(2) 全国学力・学習状況調査による  
本校の経年変化(全国を0としたときの本校の推移)



(3) 現3年生の1年次からの経年変化  
(県を0としたときの本校の正答率の差)

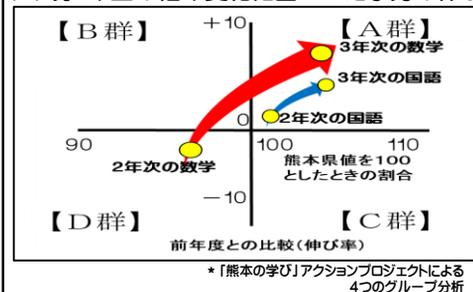


(1)(2)は全国学力・学習状況調査における本校の状況を示したものである。(1)に示すように令和3年度においては国語、数学ともに全国及び熊本県の平均正答率を上回ることができた。また、(2)に示すように本校の推移の様子を見ても令和元年度から上昇した。

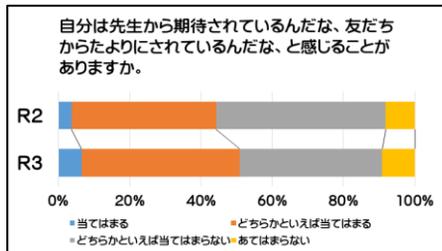
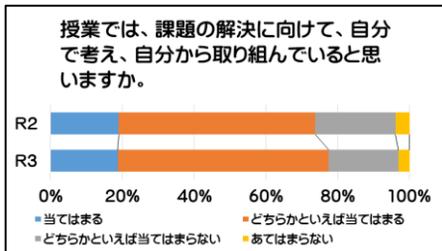
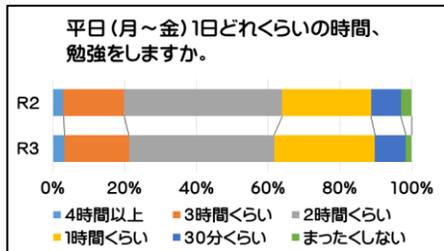
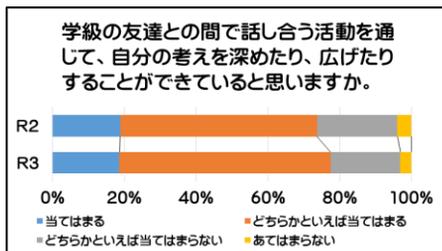
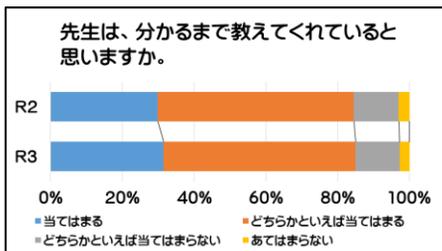
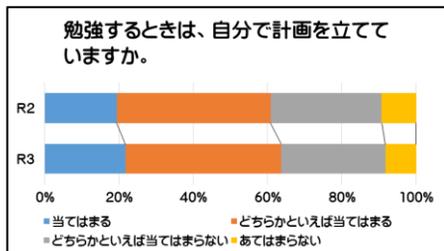
また、(3)(4)は令和元年及び2年度の熊本県学力・学習状況調査と令和3年度の全国学力・学習状況調査における現3年生の1年次からの熊本県を0としたときの本校の正答率の経年変化である。2年次の数学において、下降傾向が見られたが、3年次では、どの教科も1年次より学力の伸びが見られた。

これは、全国及び県学力・学習状況調査の結果を分析し、課題を全職員で共有し、土台づくりプロジェクト及び習慣づくりプロジェクトによる「誰一人取り残さない学びの保障」と授業づくりプロジェクトによる授業改善の「教員一人一人の授業力向上」の取組の徹底を行い、常にPDCAサイクルの検証を行った成果と考えている。

(4) 現3年生の経年変化に基づいた学力の伸び



### 生徒アンケートより(令和2年7月及び令和3年7月に実施)



習慣づくりプロジェクトの取組により、家庭学習の計画が習慣化している生徒が増えてきた。また、平日の学習時間については、「30分以下」や「まったくしない」生徒が減少した。授業づくりプロジェクトの取組では、「先生は分かるまで教えてくれる」と回答した生徒が80%を超えたが、あてはまらないと回答した生徒も10%程度おり、すべての子供たちを誰一人取り残さない取組が今後も必要である。また、課題の解決に向けて自分から取り組む生徒が増えてきた。土台づくりプロジェクトの取組により、話し合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりする生徒が80%を超え、自己有用感も上昇傾向にある。

### 今後の方向性

研究2年目となる本年度は、授業づくりプロジェクトにより、対話的な学びの充実を図るために、課題解決を行う過程において、話し合い活動の充実やICTの活用等に取り組んだ。さらに深い学びへつなげるために「まとめ・振り返りの工夫」について実践を重ねてきた。今後も、すべての生徒たちが「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指して学力向上への取組を進めていきたい。

また、土台づくりプロジェクトや習慣づくりプロジェクトの取組で、生徒会を中心とした「あくていびていースペース」の活用や「自学コンクール」、「ステップアップ大会」などの実施により、「生徒と生徒」「生徒と先生」のそれぞれが支え合い、高め合う風土づくりが進んだ。また、「家庭学習チェックリスト」「小学校への」トルティーチャーボランティア」などにより「学校と家庭・地域」との連携が強化された。さらに、熊本県教育委員会及び天草教育事務所、天草市教育委員会による参観授業を頻繁に行い、本校の課題解決に向けて助言を受けるなど「行政」との連携も進めてきた。今後も、誰一人取り残さない学びの保障に向けての取組を進めていきたい。